

# 愛の便り

校訓: 志が人生を創る

雲仙市立愛野中学校 学校便り

令和7年 1月17日

第110号 (通巻)

文責 (校長; 末永栄喜)



## 冬将軍 猛威を奮う!!



3学期に入ってからこの時季らしい寒さが続き、肩をすぼめる日が続いています。私の肩凝りも凍瘡(しもやけ)もひどくなる一方です(⊖)それもそのはず、来週の月曜日は「大寒」、つまり、寒(小寒~立春前日)の中日で1年で最も寒いとされる頃です。『暦便覧』には「冷ゆることの至りて甚だしきときなれば也」とあります。至極納得ですね。引き続き体調管理には気を配り、インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染症予防を徹底しましょう。

そんな中、今週は私立高校の入試が続き3年生にとっては試験の週でもありました。幸いなことに体調を崩す生徒もおらず、万全の状態での臨めたとです。後は吉報を待つばかりです。引き続き、県外受験や公立高校の特別選抜検査(28日)を控えています。ちなみに、多くの生徒が挑む公立高校一般選抜学力検査は2月18日(火)、19日(水)に実施されます。



そこで、3年学年通信にも掲載されていましたが、私からも入試本番に向けた心構えを紹介します。参考になれば幸いです。



### ①会場へは使い慣れた筆記用具を

「平常心」を保つためにも着ているものや筆記用具は、これまで使い慣れたものを用意しましょう。たとえ、消しゴム一つでもあなたと苦労を共にしてきたことで、気分を落ち着かせてくれるはずですよ。

### ②受験番号と名前がゆっくりに書いていかに書く

入試本番で緊張のあまりあがってしまうのは、開始からの5分間と終了間際の5分間だと言われています。特に、開始直後が肝心です。落ち着いて、できるだけゆっくりに受験番号と名前を書くという単純な作業が、スタートの不安や緊張を鎮めてくれます。



### ③深呼吸を繰り返して「あがり」防止

深呼吸をすると脳波はα波の周期数が減り、振れ幅が大きくなって感情が抑えられ、落ち着いた精神状態になります。

### ④試験場に持ち込むものは、「お守り」のつもりで

参考書やノートは使い古した愛用品が何よりです。消しゴムは転がらないように四角いものを。シャープペンシルの故障に備えて、鉛筆を数本準備する心がけも忘れずに。

### ⑤採点は、第三者がするもの(意味わかる?)

自分ではそう書いたつもりでも、その成否は採点者に委ねられています。言うまでもないことですよ。特に「くせ字」は厳禁。要注意は数字やアルファベットです。「1なの7なの?」、「h(エフ)?それともn(エヌ)?」「これってa(エー)?いやd(デー)かな?」と、採点者が判断しにくい紛らわしい文字は書かないようにしましょう。

また、漢字は楷書で正しく書きましょう。くれぐれも、「口」や「く」に「がまえ」などの一筆書きは厳禁ですよ。

## 不安を自信に 迷いを気概に!!

今週の火曜日、学年(年度)のまとめとして一番大切な3学期をまとめる学級委員に任命状を渡したところです。学校という組織を構成する上で、その核となる学級。その学級を先頭に立って牽引していく代表者です。自らチャレンジ精神を表出して立候補した人、級友から熱い信頼を受けて推薦された人、いずれにしても任命された以上は、その役割を全うする責任を負います。多少の不安があることも、初めてのことで迷いや戸惑いもあることでしょう。しかし、それを自信や気概にしてほしい、する(できる)のは同じ学級の仲間ではないでしょうか。

締めめの学期が、子どもたちにとって有意義な時間となるよう願っています。学級委員の皆さん、よろしくお祈りします。

### 校長室の窓から

#### 「不器用の一心」

薬師寺の金堂や西塔の再建に関わるなど、日本を代表する宮大工の小川三夫さん(寺社建築専門の建築会社『鶴工舎』の創設者)の話を紹介いたします。



小川さんは、高校の修学旅行で訪れた法隆寺の五重塔に魅了されました。高校卒業後、宮大工になりたいという志を持って、法隆寺専属の宮大工 西岡常一棟梁に弟子入りしたいとその門を叩きますが、願い叶わず断られます。仏壇屋などで修行を重ね、22歳で再び西岡棟梁に弟子入りを申し出て、ただ一人の内弟子になります。

修行時代、小川さんは西岡棟梁から一枚のかんなくずを渡されます。そのかんなくずは、向こうが透けて見えるほど薄かったのです。小川さんはそれをガラス窓に貼り付けて、毎日眺めながら、同じようなかんなくずができるまで、毎日毎日かんなをかけては、かんなの刃を研ぎ続けたそうです。



現在、小川さんの元には宮大工になりたいという若者が1年間に300人も応募してきますが、その中でわずか2、3人しか弟子にはなれません。

「どんな基準で弟子を選ぶのか?」という質問に、小川さんは「人間は器用な人と不器用な人がいます。器用な人は仕事を早く覚えてきれいに仕事をやるが、仕事のコツをつかまないうちに先に進んでしまいがちです。

その点、不器用な人は進むのは遅いけどコツコツと納得いくまでやる人が多いのです。だから、最初はなかなかうまくいかなくても何かをきっかけにコツをつかんだら、そこからグッと伸びます。だから私は、器用な人か不器用な人かといえば、不器用な人を弟子にするようにしています。宮大工という仕事は、うまいか下手なのかよりも、一生懸命に嘘偽りのない仕事をしなければなりません。ひとつのものを成し遂げるために10年、20年と仕事をするのだから、不器用でもただひたすら一途にやる人でないと宮大工には向きません。大切なのは、『不器用の一心』なのです。」と語られています。

最初はうまくできなくても、誠実に粘り強く、そして愚直なまでにやり続けることで身につくものがある。そういう過程を経て身につけたものこそ、本物(真力)だと思えます。